令和５年度大学学長と区長との懇談会 会議内容（概要）

日時：令 和 ５ 年 １ １ 月 ９ 日 （ 木 ）
会場：東京農業大学　国際センター　榎本ホール

懇談会内容

テーマ：「事例から見る今後の連携」

１．事例から見る今後の連携について

（１）連携事例の共有（見える化）

区と大学との連携事例だけでなく、他自治体と大学との連携成功事例について、成功に至ったポイント等を共有。有益な連携創出にはどういった視点が必要かなどについて意見交換し、今後の新たな連携につなげ地域社会の持続的発展を目指す。

（２）自治体と大学との連携事例（成功事例）

事例①　若者の投票率向上プロジェクト（多摩美術大学×世田谷区）
事例②　商店街活性化活動（名古屋学院大学×名古屋市×名古屋市熱田区日比野商店街振興組合）
参考事例　世田谷地域「地域交流ラボ」（国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、東京農業大学、日本大学×世田谷地域）

２．学長と区長との懇談

区と大学との持続可能で有益な連携創出にはどういった視点が必要かなど、大学全体としての大きな視点から学長との意見交換を行った。

＜主な意見＞

- 大学間、または区などと様々な連携活動をしているが、負担の生じる関係性では長続きしない。
- 学生参加型の地域連携・社会貢献事業は社会実装の教育となる。区内の地域を活用した学問研究を続ける方向性を強めていきたい。
- 少子高齢化により大学は経営難になるといった問題に直面している。社会も同様に少子高齢化問題に直面しており、共通課題として連携していく意義があるのではないか。
- ポストコロナとして、途切れてしまった小さなコミュニティを回復することから始め、さらにその幅を広げ、地域コミュニティづくりに参画するような学生による取組みが重要ではないか。
- 様々な事例を見ると、一方が何か提供しているように見えても実は互いに利を得ている。このようなウィン・ウィンの関係が成功、継続の秘訣であると感じる。
- 連携・協働につなげることは簡単だが、連携を継続・発展させていくことは難しい。そのための仕組みや情報が必要ではないか。

３．令和６年度に向けて

学長と区長との意見交換を受け、連携を継続し発展させていく事例の共有や仕組みを検討していく。